

史遊会通信

No.222号
平成25年
7月13日

臨時事務局
042-754-9360
arai-hiroshi@
jcom.home.ne.jp
新井宏

六月講演要旨

なぜ忠臣蔵が持て囃される

千坂 精一

歴史物は取材と史料さがしを終えてようやく書きはじめることができる。

私は不器用だから、現地に立たないとイメージがわいてこないのだ。

むかしは草履ばきで現地の土の感触を確かめられたのだが、現在はどこも舗装されているので足裏の感触が鈍くなってしまった。

地形も風景もまったく変貌してはいても、頬を打つ風やその場の空気に包まれていると遠い昔の光景が朧気ながら臉に浮んでくる。

このごろは足腰が萎えて現地取材が困難に

なってしまう、蓄積してある取材メモを頼りにしているのでイメージの惚けが心配である。

史料さがしのほうは各地の図書館や教育委員会、郷土史家などを訪ね歩けば蒐集できるので杖を片手でもつづけられる。

だが、史料で困るのは厳正中立、客観的なものがないということだ。

人が書いたものだから、情が入ってどちらかに片寄るのは仕方がない。

だから、ひとつの史料だけに頼るのではなく、複数さがし出さなければならぬ。

例会のお知らせ

◎ 7月例会

日時 平成25年7月24日(水)
午後6時～8時

会場 目黒区民センター 7階

社会教育館 第2研修室

講演 太田精一氏

テーマ 天羽英二日記にみる太平洋

戦争開戦時の日本と世界情勢

自由執筆者 隆恵・中込勝則・

千坂精一の諸氏

締切 7月末日

◎ 9月例会

日時 平成25年9月25日(水)
午後6時～8時

会場 目黒区民センター 7階

社会教育館 第2研修室

講演 村上邦治氏

テーマ 未定

自由執筆者 新井宏・柴田弘武・

瀧澤中の諸氏

締切 9月末日

なるべく多くの史料を蒐めて読めば読むほどぼんやりながら全体がみえてくる。

それらを総合してこれをもっとも真実に近いと思われる説を立てる。

取材と史料調べがすめば八割がたは終わり、あとは書くだけである。

あるとき、浅野内匠頭の殿中刃傷事件を調べていて疑問に思ったことがあった。

それは浅野が吉良に斬りかかったときに浴びせた罵声である。

記録によれば、事件発生するとき現場のもっとも近くにて浅野の刃傷沙汰を抱き止めた梶川與惣兵衛は、その『筆記』のなかで、

『浅野が「此の間の遺恨覚えたるか」と言つて切りつけた』

と書いており、当日当番目付として浅野の訊問にあたった多門傳八郎は、その『覚書』のなかで、

『浅野が「私の遺恨これあり、一己の宿意を以て前後を忘却つかまり刃傷に及んだ」と答えている』

といているし、『徳川實紀』には、『「宿意あり」と言いながら小刀で斬りかかった』

と記録されている。

いずれも、

「この間の遺恨覚えたか」

「一己の宿意をもつて」

「宿意あり」

と浅野が吉良に恨みを抱いての犯行であることに一致している。

だが、問題はここからなのだ。

浅野が吉良にかねてから恨みを抱いていたのならそのことを側近に漏らしているにちがいないのだが、個人秘書を兼ねていた少年小姓頭の片岡源五右衛門さえ知らされていなかったのだから遺恨の実態は不明である。

また、浅野が切腹をまえにして田村家の用人に家臣に伝えてほしいといつて、

「この段予て知らせ申すべく候得共、今日已むを得ざる事に候故知らせ申さず候。不審に存ずべく候」

と遺言したというのだが、「不審に存ずべく候」といつているように、だからなんだというのか意味がまったく解らない。

こうしてみるとおり、浅野が吉良に抱いた遺恨はなんなのかまったく不明のままである。

やはり精神錯乱による衝動的乱心なのか、あるいは本人のいう持病の瘡(つかえ)の発作なのか、想像の域を出ずにいたところあるときひよ

んなことから納得のゆく原因が藪めた。

それは吉良が埋葬されたという牛込築土の久寶山萬昌院を探しに行ったときのことである。まさに犬も歩けばという結果になった。

萬昌院は上高田に移転しており、隣の功運寺と合併して萬昌院功運寺となっていた。

ところがその功運寺のほうに幕府の奏者番永井尚長の墓があり、その永井は芝増上寺での四代將軍家綱七七忌の法要奉行のとき老中からの奉書を見せるとせがむ方丈口勤番の内藤忠勝を振り切つたため刺殺されたという。

その内藤忠勝はなんと浅野内匠頭の母の弟だと突き止めたときには思わず笑みが零れた。ノンフィクションならこれで一件落着きというところなのだが、小説やドラマとなるとこれでは読者も観客もついてこない。

フィクションの世界では「この間の遺恨覚えたか」や辞世の歌を詠んだところがキーポイントになるから、遺恨の理由をあれこれ創作してもつともと思われるように仕組む。

そこが当たると、見事に勸善懲悪のお涙頂戴ものに昇華してゆく。

歌舞伎に『假名手本忠臣蔵』という演目があるが、不入りのときに出す狂言でいつ上演しても必ず当る気付薬といわれている。

自由執筆

いじめをなくす方法

三戸岡道夫

私は今から数十年前、郷里（静岡県）のある小学校で代用教員をやっていた。昭和二十年から二十一年の二年間で、十八歳と十九歳のときであった。

昭和二十年の三月に旧制中学校を卒業したが、その頃の小学校では男の先生は戦争に行ってしまった、男性教員が少い。そこで、中学校を卒業したぐらいで、代用教員として小学校の先生になることが出来たのである。

中学校を卒業したばかりの、教育のキョの字も知らない若僧に、大事なクラスは担当させられない。そこで代用教員が担当するのは大体、三年生か四年生であった。私が担当したのは三年生の男子組であった。

ちようど、生意気盛り、いたずら盛り、遊び盛りの年頃である。勉強を教えるというよりも一緒に遊んでいるという感じだった。

その中に一人、とびきり腕白で、いたずらで、どうしようもない生徒がいた。成績も最低であ

る。授業中もさわぎまくって、手のつけようがない。いくら叱られても、平気である。生徒の中のガキ大将である。さて、どうしたものか。私は一計を案じて、そのガキ大将を、クラスの、「掃除部長」

に指名したのである。

その頃の小学校は、クラスに級長、副級長というものがあつた。一番成績のいい者が級長、そして二番目の者が副級長である。他に「長」という字のつく者はいない。

私は自分のクラスだけ勝手に、級長、副級長の他に、掃除部長、下駄靴整理部長、ガラス拭き部長、黒板拭き部長、お花部長などを作つた。すると廊下の外に散らばつていた下駄や靴があつという間に、整然と並ぶようになった。散らばつていると、下駄靴整理部長がすぐ揃えるのである。窓ガラスもていねいに拭いて透き通るようになり、お花部長は自分の家の庭の花を摘んできて教室を飾つたので、いつも生き生きした花が絶えなかつた。

では、掃除の方はどうだったのか。毎日授業が終ると、十名ずつぐらいその日の掃除当番が残つて掃除を始めるのである。私は職員室に引上げて、二十分ぐらいたつとその進行状況を見

に行くのであるが、いつもまだ三分の一ぐらいしか進んでおらず、箒やバケツでチャンチャンバラバラの真最中である。

ところが掃除部長を決めたその日、二十分ぐらゐして教室に行ってみると、机や椅子は元のまま、しんと静まりかえっている。私が、

「なんだ、まだ何もやってないじゃないか」と言うとき、ガキ大将は、

「いえ、もう掃除は終わりました」と言うのである。

「終わった？ 机や椅子はもとのままじゃないか」

「いえ、終つて、もとの状態になつたのです。うそだと思ふのなら、埃などきれいになつていますから、触つてみて下さい」

そう言つて、机や床の上を撫ぜた。私も机や床を指で触つてみた。きれいに雑巾で拭いてある。掃除は完全に終つていたのである。

いつもの二十分たつてのチャンチャンバラバラが、今日は完全に終了しているのである。私は驚いた。

その日掃除が始まると、ガキ大将は、

「今日から俺が掃除部長だ。さぼると承知しないぞ。はやく、やれ！」

「よーし、やるぞ」

チャンチャンバラバラなどは、すっ飛んでしまつて、全員が掃除にむかつて突進した。かくして掃除は完全に終了したのである。

「掃除部長、偉いな」

「これからも頑張ります」

こうして私のクラスは、たちまち全校の中で、一番掃除のはやいクラスとして有名になつたのである。そしてそれを機会に、ガキ大将の成績も少しずつ向上していった。

最近の学校では、いじめが問題になつてゐるという。そのいじめに、このガキ大将方式が利用できるのではないだろうか。

いじめが起きているクラスで

(仲よしくらぶ)

を作るのである。その仲よしくらぶの会長に、いじめ大将をするのである。

「今日から俺が仲よしくらぶ会長だ。みんな仲よくしろ。いじめなどすると承知しないぞ」

「よし、仲よくするぞ」

いじめなど、すっ飛んでしまふに違いない。

この方法は更に大人の世界にも通用するのではあるまいか。

最近さわがしい暴力団対策である。

街に暴力団追放のポスターを貼つたりするよりも、街で

(道徳をひろめる会)

を作るのである。そしてその会長に、暴力団の親分を就任させるのである。

その結果は、ガキ大将やいじめ大将で明瞭である。人生劇場、仁侠道である。

(終)

自由執筆

夏の朝に想う

小田紘一郎

一、まもなく夏至(げし)である。朝明けるのが一年で一番早く三時半過ぎ頃には少し明るくなる。

この朝については、古典において「あかつき」、「あけぼの」、「夜明」、「朝ぼらけ」、「しののめ」等と言つた言葉があり、微妙に時間の変化と推移を示している。

「春はあけぼの……」とは枕草子に描かれてゐるし、「あかつきの別れ」は、源氏物語の第一〇巻「賢木」の冒頭で光源氏と六条御息所の

別れを描いており、二人は歌を詠み合つて過去を清算している事で有名である。この巻は、名文と名歌が多くある。

「あかつきの別れはいつも露けきをこは世に知らぬ秋の空かな」(光源氏)

「おほかたの秋の別れも悲しきに鳴(な)く音ながら新聞に目を通した後、一〜二時間読書をする。そして狭い庭に出て(庭などとはとても言

二、若い頃から朝早く起きる習慣がついてゐる。家が農家であつたからである。今は年をとつたことも加つたのである。今は年頃には目をさます。まず、お茶を一杯飲みながら新聞に目を通した後、一〜二時間読書をする。そして狭い庭に出て(庭などとはとても言えない狭い空間なので東南の道路と言つた方が良い)作業をする。のびた枝を切り枯れた木々をぬき、咲き終つた花をつみ、水をやリ、肥料を与え消毒をする。冬なら道路に落ちた枯れ葉を集める。一〜二時間あつと言つ間に過ぎしてしまう。その後朝風呂に入る。若い頃だと近くの雑木林をジョギングしたり、風呂あがりのビールを楽しんだりしたものである。それをし終えても時計を見るとまだ七時頃であり、従つて一日が大変長く感じて得をしたように思える。勿論、夜はなるべく早く、少なくとも九時には寝るようになっている。省エネ生活である。

三、早朝はすがすがしく、静かだ。空気が美味しく、太陽が緑を色々にかえてくれる。好んで落葉樹の雑木を多く植えているので、その変化が楽しいし花をも楽しませてくれる。鳥の声も多く、五月の終りには近くの女子大の森から「かつこう」の鳴き声が聞こえたが、ここ一、二年聞かなくなつた。どうしたのであろうか。

初夏から盛夏にかけて(源氏物語で言えば、「蛭(はたる)の巻」から「常夏の巻」、いわゆる玉鬘(たまかざら)十帖の中頃の候)に当る、何故か白い花が多い。「みずき」「えご」「みかん」「夏つばき」「山ぼうし」「くちなし」「サラ」「卯(う)の花」「うつぎ」「山あじさい」「夏ロウバイ」……「夕顔の花」もまた白い。私は雑木に、妻はバラ、草花にこつている。もつと土地が広ければと残念であるが、多少なりとも土があることに感謝しつつ出来る限り植物をたのしんでいる。源氏物語にも多くの木々が描かれている。まもなく梅雨、木々、草花は水を十分すいこみ成長が著しく、枝落として大変である。五段ばさみで二階までのびた枝を落すのには、なかなか体力がいていい運動にもなる。梅雨が明けると真夏、「さるすべり」「きょうちくとう」「ノーゼンカズラ」「ハイビスカス」等と赤系統の花が咲く。春は黄色の花が多い。

四、朝に対し勿論夜がある。夜について最近強く想っている事は次の二つの音楽である。

一つは、ワーグナーの「トリスタンとイゾルデ」である。この作品は、実に官能的・情熱的に愛(あい)を描いて有名であるが、夜に対する賛歌が出てくる。主人公トリスタンは歌う。

「昼は、虚言、栄光、名誉、努力、利欲であり、浮んで芥のように碎けて散るばかりであつて、愛を分つものに対し、夜は、永遠、真実、愛の歓びであり愛を結ぶものである。」

そのあと古今の愛の二重奏中、最大の傑作と言われている「愛の二重奏」(おお降り来よ、夏の夜を、我生きることを忘れさせよ……)が出てくる。

又、「ニーベルングの指輪」の中にも、男と女の愛の二重奏、愛の陶酔が強く描かれているが、源氏物語においては、これらがあるであろうかと最近よく想うようになった。かかる観点から、源氏物語の愛について考えつつ全体を讀んでみるのも面白いことであろう。

二つは、マーラーの交響曲第七番である。これは副題が「夜の歌」となっており、第二、第四楽章に夜曲が歌われている。そして解説書によれば九曲(あるいは一〇曲)あるマーラーの交響曲のうち第七番は「神秘的な自然の世界と

楽天的な意志の哲学をもっている」となっているが、私には今はまだよくわからない。徐々に理解できることを期待して、今後とも楽しんでいきたい。

しかし、いずれにしても、ワーグナーとマーラーとは、リヒャルト・シュトラウス等々といわゆる「後期ロマン派」を形成する作曲家であり、これらを好んで最近聴くが、なかなか興味がわいている。

五、今年の猛暑には、透析の身でかなりこたえたが、今年は、食事に気を付け、運動をしつつ体調管理を十分にしながら乗り切つていきたいと想っている。なお、透析は、週三回、一回当たり四〜五時間を要するが、この間何もやることなく、もっぱら「源氏物語」と「クラシック音楽」に没頭できることは、よくよく考えてみれば実に幸せなことではないかと思つている。今年の夏でそんな生活も一〇年目を迎えることになる。

いつものことながら、拙文、駄文で誠に恐縮である。

自由執筆

鬼の泣き声を知っていますか

…四字熟語が面白い②…

鯨 游 海

あなたは鬼の泣き声を聴いたことがありますか。四字熟語は教えてくれます。(左段の①)。昨今の若者は国語力が落ちたといわれます。それでは貴兄の国語力を計ってみましょう。次の四字熟語、正解できるのは幾つ？

① 鬼哭愁愁 愁愁(しゅうしゅう)は誤りで啾啾(しゅうしゅう)が正しい。愁は④嘆き悲しむ、⑤憂える、⑥心配する、で心が係わるのに対し啾は口から出る音声を表す。

従って虫の泣く声も啾啾と書く。

② 不倒不屈 倒は撓(とう)が正解。撓とは⑦たむげ、⑧押し曲げる、⑨へたへ。不撓(ふとう)でくじけないこと。これ正解の方はかなり出来る人。

③ 艱難心苦 心ではなく辛(しん)。ついウツカリ心が苦しくなると間違えてしまう人が多い。辛にはピリリと辛(から)い、苦しい、惨(むご)い等の意が有る。現代の若者よ！三浦雄一郎さんを見るがいい。艱難辛苦の後に歓喜が有ることを知る。

④ 眼光蚩蚩 蚩蚩(けいけい)は誤りで正しくは炯炯(けいけい)。光り輝くさま。眼光の鋭いさまとなる。最近はこのような大人物におめにかからなくなった。

なお熟さを表す盍(ごう)という異字がある。

⑤ 加治祈祷 治(じ)は誤りで持(じ)が正しい。仏教用語で、加持とは密教の行法によって念じること。病気を直すのでつい治の字を使いなくなる。加持も祈祷も神仏に一心に念じること。

⑥ 多士斉斉 斉斉は誤りで濟濟が正しい。数が多く盛んなさま。訓(よ)みはサイサイが呉音セイセイが漢音でどちらでも可。多士とは有能な人物が沢山居ること。

⑦ 一意諾諾 一意は誤りで唯唯が正しい。唯唯とは「ハイハイ」と応諾すること。主体性がまるでないイエスマンで組織の中では馬鹿にされよう。古代日本人を倭と称したのは何を尋ねても主体性がなく応諾したからか？

⑧ 無我無中 無中は誤りで夢中が正しい。
⑨ 色則是空 則ではなく即を用いる。この世の万物は形を持つが、それは仮のもので本質は空虚であり不変のものでは無いの意。般若心経にある語。

⑩ 三昧一体 味は誤りで位(み)が正しい。

キリスト教で父(天の神)・子(キリスト)・聖霊の三つは本来一体だとする。転じて三者が心一つに合わせる場合にも使う。

⑪ 五里夢中 夢(む)は誤りで霧(む)が正しい。本来は道教の用語で「五里霧(ごりむ)の中」という意味。五里四方に霧を湧かせる秘術。事情不明で、どうしていいか判らない状態をいう。
⑫ 唯我独存 存は誤りで尊(そん)が正しい。自分だけが優れていると自負すること。釈迦が生まれた時「天上天下(げ)唯我独尊」といったという。

⑬ 起床転結 床は誤りで承(しょう)が正しい。詩(特に漢詩)や文章を作る時の基本的な形。

⑭ 無限地獄 限は誤りで間(げん)が正しい。仏教用語で八大地獄の一。絶え間ない苦しみを受ける地獄のこと。意味からは限でもと思うが。
⑮ 起死改生 改は誤りで回(かい)が正しい。崩壊の危機を救って甦(す)えること。回復する回。

⑯ 責任転化 化は誤りで嫁(か)が正しい。転嫁とは罪や責任などを他人になすりつけること。元来は再度の嫁入りの意からこの字を用いる。

⑰ 乾坤一適 適は誤りで擲(てき)が正しい。擲とはサイコロを投(な)げること。男が大勝負をか

ける時に用いる。天地をゆるがす一発勝負をいう。

⑱ 万場一致 方は誤りで満が正しい。方を使うのは万巻の書、万病の元、万年平社員、万歳など。満の方は満杯、満額、満点、満喫……。
⑲ 常当手段 当は間違いで套(とう)が正解。つい当を使ったがるのは套の字に慣れがないからか。

⑳ 自己同着 同は誤りで撞(どう)が正しい。撞着とは突き当たること。自ら矛盾し辻褄が合わないこと。自家撞着とも自己矛盾ともいう。

七月の講演要旨

太田精一

テーマ「天羽英二日記にみる太平洋戦争開戦時の日本と世界情勢」

天羽英二は、昭和十六年八月から十月まで近衛内閣の豊田外相のもとで外務次官を務めた。わずか二カ月であったが、日米戦を回避しようと努力した。

だが、開戦へと向かう時代の潮流を押しとど

めることも出来なかった。

その後、内閣情報局総裁に推薦され、一九年七月、緒方竹虎に引き継ぐまで総裁職を務めた。敗戦によってA級戦犯となり、巣鴨の拘留所に収監され、昭和二十三年釈放された。

三国同盟締結時のイタリヤ大使であったが、同盟には、反対していた。そのため、二か月後に帰国命令を受けている。

彼は、神戸高商から東京高商に移り、外交官試験に合格、東大卒の多い外務官僚の中で、主要なポストをしめ、陽のあたる場所を歩いてきた。

五千枚に及ぶ膨大な日記を明治三十九年から昭和二十三年まで書き綴っている。その膨大な資料の中から開戦時の日本の状況に焦点を当て話すことにしたい。

当時の日本の置かれた内外の状況を判断し、国益を守るために、どのような外交努力を払ったかをこの資料を通して、明らかにしたい。

余談になるが、長男の民雄氏は、昭和四十七〜五十年、私がベオグラードジェット口事務所長の頃のユーゴスラビア大使で、大変お世話になった。

幹事からのお知らせ

☆ 七月は会費の納入月です。半年分九千円をお忘れなく。

☆ 八月は恒例により休会です。史遊会通信もお休みになります。

☆ 九月、またおめにかかりましょう。お身体に気をつけ、猛暑をのりきりましょう。

ご存知ですか

ネットで読める史遊会通信

「史遊会通信」は原則として偶数ページ建てです。今月は少し紙面に余裕がありますので、史遊会通信がインターネットで読めることを紹介します。

こんなことがありました。

例の飲み会の席上のことです。諸橋奏さんが「旧友からネットで史遊会通信を読んだよ」との連絡があつたと嬉しそうに話をされました。

また、森下征二さんが、あすなる社の『パピヨン』に「柳宗元が抱いた女―私説・河間伝―」を載せられた時に、河間のことをもう少し知りたくて、インターネットに「河間伝」と入れてみたことがあります。そうしたら何と、最初に出てきたのが、史遊会通信二〇六号に載る森下征二さんの「柳宗元の河間伝について」でした。

このように、現在では「史遊会通信」に記

載されたみなさんの「自由執筆」などはパソコンで簡単に読めます。

例えば、検索ソフトのグーグルに、ご自分の名前を入れて見ましよう。あまり平凡な名前ですと、類似の方の記事が沢山出てきてしまい、ご自分の関連記事を見つけるのが大変ですが、名前の他に史遊会といれると、たいいてい「史遊会通信の目次」に行き当たります。

そこには過去千件以上の記事のタイトルが載っていますが、一八〇号以降のものなら、その号をクリックすると印刷形で現われます。最近の部分を次に載せて置きます。

お子様、いや、お孫さんに頼んで一緒にご覧になってはいかがでしょうか。

まだ確かめていませんが、電車の中で「スマホ」でも見ることができそうです。

念のため、ホームページのアドレスを次に載せます。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/ai-hiroshi/shiyukai/sushin.xls>

(新井)

218	軽野・軽部 地名考	柴田弘武	2013.03.16
218	清正をめぐる数奇な人々	新井宏	2013.03.16
218	口のみ伝承二百五十年の奇跡	鍋屋次郎	2013.03.16
218	こんなはずではなかった	千坂精一	2013.03.16
218	武則天の光と影(II)	中込勝則	2013.03.16
219	考古学における新年代論の諸問題	新井 宏	2013.04.10
219	武則天の光と影(III)	中込勝則	2013.04.10
219	怪談	瀧澤 中	2013.04.10
219	古代日本海文化の再認識-瀉湖連合勢力と邪馬台国	諸橋奏	2013.04.10
219	東北の鉄縄文・弥生遺物研究から見えてくるもの	中山喬央	2013.04.10
220	『新唐書 杜甫伝』を読む	中込勝則	2013.05.13
220	微生高(びせいこう)	森下征二	2013.05.13
220	カスパーアルジェの旧市街-	太田精一	2013.05.13
220	江戸時代になる前の数学	佐藤健一	2013.05.13
221	日本太古史と兼農サラリーマン	三戸岡道夫	2013.06.13
221	出雲大社再考(二) 千家本家説の定着	村上邦治	2013.06.13
221	伊治公砦麻呂事件	平山善之	2013.06.13
221	『東北における大陸文化』	漆原直子	2013.06.13